

## 「失敗」と向き合う

荒井 英治郎 (信州大学学術研究院総合人間科学系)

### 1. はじめに

本稿は、2021年度に開講した教職科目(選択)「現代社会と教育問題」(2022年1月11日)の授業にオンラインゲストとしてご参加いただいたゲストティーチャー(妹尾昌俊氏:合同会社ライフ&ワーク代表)の講演内容を再構成したものである。記録作成に当たっては、本学の学生である奥村和さんに尽力いただいた。記して感謝を申し上げたい。

### 2. ゲストティーチャーの話

#### (1) 自己紹介

【ゲスト】皆さん、こんにちは。妹尾と申します。今日はどうぞよろしく申し上げます。初めての方も多いのでどうぞお気軽にお付き合いいただきたいです。学生の皆さんもこのセッションはこれが正解だとか間違いだとかいうものでは無いです。このパートは「失敗」と向き合うということで、お届けしようと思います。

#### (2) クリエイティブ思考を高める授業

【ゲスト】私は色々な学校を回って、見学したり研修したりしています。数年前に横浜の中川西中学校に行ったときの授業が結構面白かったので紹介します。時間割には「ダイソン」と書いてありました。これ

はダイソン財団という吸引力抜群の掃除機を出している会社の関連財団が出張授業に来ていた頃のことです。この授業では、ダイソン掃除機の誕生秘話をしながら子どもたちと一緒にクリエイティブ思考を高めるための授業をやっていました。そのときにジェームズ・ダイソンがダイソン掃除機を開発するまでの間に、ものすごい試行錯誤があったという話があります。まず自宅の紙パック式の掃除機がすぐ詰まるということで、自分で作るのが得意だったダイソンさんは自分で掃除機を分解し、改良を始めました。そこから自分なりに既製品の掃除機を分解・改良を繰り返します。

ここで皆さんにクイズです。ダイソンさんが吸引力抜群の掃除機の初号機を開発するまでに何年かかり、何台の掃除機の試作品を作ったのでしょうか。正解は「15年」

と「5127台」です。そして、中学生たちにそのストーリーを話した上で次のような話をします。「中学校生活や、高校、大学に行ったり、社会人になったりする中で、色々なうまくいかないことや、失敗がいっぱいあると思います。けれどダイソンでさえも何千回も失敗しているから、失敗して落ち込むことも多いと思うけれど、失敗と試行錯誤を繰り返すことは、新しいものを生み出す時に大事なプロセスなのだ」という話です。その上で、ダイソンのように、日常生活の中でこれおかしいなと思うことは、発明の種なのでどんどん考えてみましょうと授業が始まります。この授業は、色々な教科を組み合わせる3時間分の授業を取っていますが、教科横断的な学びのためにやっています。例えば、グループで話し合い、デザインした試作品をダンボールで作ったりします。そしてプレゼンで中川西中学校長賞や、ダイソン賞などをつけてビジネスコンテストのようなことをします。それで、子どもたちの創造する力、考える力、発表する力、共同で学ぶ力などを高めていきます。私は、学校で子どもたちの好奇心を高めたり、クリエイティブ性を高めたりできる授業がもっとできるといいと思っていますが、もう少し先生たちの頭を柔らかくできないかなとも思っています。ダイソンさんほどじゃなくとも、世の中失敗やうまくいかないことは溢れています。

### (3) 失敗から学ぶ業界

【ゲスト】マシュー・サイドの『失敗の科学—失敗から学習する組織、学習できない

組織』(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年)では、失敗から学ぶのが上手い業界と失敗からあまり学べない業界が対比されています。失敗からよく学んでいる業界の典型例として挙げられているのが、航空業界です。航空業界は、自動車や他の事故に比べると極めて事故率が低いですが、飛行機も最初から安全だったわけではなく、失敗や試行錯誤を経て安全になったわけです。一つの安全性を高める仕組みは、「ブラックボックス」という飛行機事故が起こった時などに全部録音したデータがあるので、それを解析し、同じ失敗が二度と起こらないように対策を練り、しかもそれを会社を超えて共有する仕組みができています。これが失敗から学ぶということです。あともう一つは小さなミスをどんどん報告させるということです。私が驚いたのは、10日以内に提出すれば処罰されない点です。普通の企業や、公務員であれば、バレなければいいと思いますが、10日以内にちゃんと報告したらその処罰もされない。むしろ、小さなミスも含めて正確に報告したことが、後の大きな事故の防止に繋がるから偉いという発想をしています。一方で、失敗からあまり学んでいないと著者が書いている典型例が、医療です。医療業界の一つの例として挙げられているのが「瀉血」という古代からの治療です。なんと17世紀18世紀までずっとヨーロッパの一部、アメリカでもこれが使われてきたようです。ただしこれは医学的にはほとんど効果はないと今は言われていて、普通の場合は行わないものです。しかも効果がないばかりか、非常に有害なものさえあったそうです。根が

深いのは、この治療法が有効かどうか、一度も検証しなかった点です。医者たちは、患者の調子が良くなれば瀉血で治ったと信じ、患者が死ねば重傷だったと言いました。都合良く考え、瀉血の有効性を誰も疑わずに続けてきてしまったのです。これは学校とは直接関係ない話ですが、今日の学校や教育行政は、航空業界のように失敗からうまく学んでいる業界なのか、それともこの医療のように検証しなかったり、失敗に向き合わなかったりするような業界になっていないかということをご一緒に考えてみたいです。

#### (4) 学校は学んでいるか

【ゲスト】子どもたちも先生たちも失敗やうまくいかないことから学んでいるのだろうか。あるいは学校は安心して、試行錯誤したりチャレンジしたりできる場になっているのだろうかということをご一緒に考えてみたいです。

例えば、部活動について、そもそも部活動は何のためにやっていたのかをもう1回振り返ってもらくと、意義や効果が見えてきます。すると部活に入っていない生徒をほっといていいのか、部活動に教育的な効果があるとしても、マイナス面や副作用もあるのではないかと疑問が生じます。例えば、勝利至上主義的な考え方になってしまうことは、プラスとマイナスの両方あります。学校での時間が長くなりすぎて地域で過ごしたり、自分の時間を大切にしたりすることが減るのではないかといったことです。プラス面とマイナス面が両方ある中でどのような部活動だといいいのか、本当に

今のままでの部活動でいいのか、本当に部活動は必要なのかというレベルの話をごどれだけの学校でできているでしょうか。また、教育委員会の中でもできているだろうかと言われると、かなりクエスチョンがつくと思います。しかし、うちの学校はこの部活動が強いとか、熱心にやっていた顧問の先生が異動したら次どの先生が担当されるのか、体育館の割り当てなどの話はどの学校でも出ていると思います。けれど本当に部活動のプラス面とマイナス面を洗い出し、部活動のあり方を議論している学校や教育委員会がどれほどあるのかについては、私の知る限りではかなりクエスチョンが付きます。政府のスポーツ庁や文化庁で部活動のガイドラインを作ったときに私は有識者会議の委員をしていたのですが、そのときにした話は、部活動が決して駄目なわけではなく良さもたくさんありますが、部活動をやりすぎると色々な副作用がありますということです。1つは、特に運動部の場合、スポーツをする時間が長ければ長いほど怪我のリスクが高くなることです。例えば、週16時間以上や、年齢×1時間が一つの目安になっていて、それを超えると怪我の発生確率が高まるというデータもあります。例えば、中学生であれば、12時間とか13時間です。これはトータルの運動時間ですので、体育の時間なども含めています。また、子どもたちの自由な時間をもっと確保していく必要があるのではないかという議論もしました。つまり部活動がけしからんと言っているわけではなく、やりすぎると色々な問題があるということです。つまり、よく世間で言われている教員の負担の問題以外の

問題もたくさんあるのではないかということも議論しました。もう一つは部活だけではないですが、教員から生徒への暴力行為に関して、これだけメディアなどで体罰等について問題視されているにもかかわらず、あまり減っていません。最近のデータでも体罰は一定数報告されています。しかもその体罰は授業中もあります。部活動中も多いです。ですから、部活動の光と影の両面を見る必要があると思っています。やはり部活動はためになっている生徒や、やりたいと言っている生徒、中学生になったら部活が楽しみという小学6年生もいるけれど、子どものためと思ってやっている活動が本当に子どものためになっているのだろうかという問い直しは必要だと思っています。今回、「事前アンケート」で学校の中でおかしなことや変だと思うことはないですか、という項目を設けました。その中に、例えば、合唱コンクールではほとんど歌い方や、演奏の仕方をちゃんと学ばないでとにかく頑張っただけで、嫌いな感じの指導で、嫌になったことや、歌もうまくならなかったことで、何のためにやっているのかという疑問を書いた学生がいました。このように子どもためと思って続けてきた合唱コンクールや音楽発表会が、実は子どものためになっていない部分もあるのではないかと思います。

ここで、日本大学の広田先生らの本を紹介いたします（広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか？—「わかったつもり」からの脱却』日本図書センター、2010年）。こちらは、教育問題はなぜ間違っただけで語られるのかについて書かれています。3つの問題を指摘されてい

ます。1つ目は、現状を正確に把握できているかどうか。事実認識がちゃんと合っているかどうかという問題があります。2つ目は、問題の原因や背景をきちっと検討できているか、診断の問題です。ですから、この事実認識とか診断をそれぞれちゃんとできてないまま教育改革だとか、これが必要だ、みたいなことを言ってしまうがちなどころがあるので、自分自身も含めて注意しないといけないと思っています。3つ目は、教育という営みの微妙さや副作用の可能性について留意できているかということです。先ほどの部活動の例で言うと、副作用の可能性とか微妙さについてちゃんと配慮できているかどうかが大変なことになると思います。つまり、いいことばかりではないし悪いことばかりでもなく、多くの場合はプラス面、マイナス面、両方あります。そして子どものためになると大人が思い込んでいることの中にも立ち止まって考えると、本当に子どものためになっているか、分からないものもあります。また時間は有限なので様々な学ぶべきことを増やすと、子どもたちの自由な時間も少なくなってしまう。

もう一つは、先日の発表で不登校の小中学生が増えていると確認されています。そこで文科省が不登校の主たる要因を調査しているのですが、学校側の回答によると、いじめや人間関係が原因という例は10%あるかないかくらいで、教職員との関係で不登校になっているという例は、ほとんど無く、1.9%と0.9%です。では、何を原因にしているかという本人たちが無気力、不安だからだというケースが、46%、47%です。学校側は無気力不安が原因だと答え

ている人が多いです。一方、小学生中学生に対して不登校になった理由、学校に行きづらいつらいつらと感じたきっかけについて聞いた調査（複数回答）では、いじめ、または友達が原因だというのが25%ずつぐらいあって多いです。もう1回お伝えしますが、教員が答えている調査の方では友達関係だというのは少ない感じでした。これも複数回答だったらチェックしていたのかもしれませんが、ギャップがあります。しかも一番大きなギャップがあったのは、子どもたちに聞くと、先生のせいで行きづらいつらいつらと感じたという小学生29%、中学生27%で結構多いです。もちろん体調不良とか生活リズム、朝起きられなかったという無気力的なものとかもあります。何が言いたいかというと、先生たちの認識が甘いと弾劾したいわけではなく、先生方の認識と、当の本人たちの意識に大きなギャップがあるかもしれないということです。ついつい人間というものは、何か悪いことがあると、人のせいにしがちです。これは「防衛的思考」とも呼ばれますが、自分を守るために、人のせいにしてしまいがちです。しかし、先生方が子どもたちの辛さやSOSについて、先生たちの自己認識よりうまくキャッチできていない可能性や、子どもたちの本音等を十分酌み取れてない、あるいは、子どもたちも十分開示できていない可能性があるということです。しかも子ども達に聞いた調査もまだまだ不十分な点もあり回収率がすごく低いです。やはり不登校経験者に対する調査ですから、回収率が低く、回答していない子どもたちはもっと別の認識だったかもしれないですし、さらに、この調査は復帰した子から聞いているとい

う限界もあります。だからこの調査も注意して見なければいけません。

また、2020年はコロナによる一斉休校があり、夏休みが2週間前後に短くなった学校が多かったと思います。一方、2021年には夏休みの期間をコロナ前に戻したところも多かったと思います。果たしてどれがいいのか、この講座の学生のみなさんに事前に聞いたアンケートでは、30~40日前後あっていいと言う方が66%くらいで、無くてもいいという方もいて、色々な意見があります。メリット、デメリット両方あると思います。子どもたちにとって夏休みにしかできないこともありますね。一方で、家庭ごとの貧困の格差、経験の格差のことを考えると、リスクになる家庭も増えていきます。もう一つ皆さんに考えて欲しいことは、2020年の一斉休校があったときに、2週間前後とか、夏休み短くしたときと、2021年に戻したときとで、しっかりこの夏休みにどういうメリットやデメリットがあるのかということを経済委員会の中でどれほど議論したのか、です。しっかり議論したよという自治体もある一方で、一斉休校のときは授業が2ヶ月分ぐらい遅れたので、夏休み短くせざるを得ないのではないかという限られた視点で決めた、あるいは周りも短くしているから、また、一部の保護者から不安の声があったということで、判断したところもあるかもしれません。もう一つ考えたいのは、教員にとってどうかという視点です。もう少し夏休みを長く取った方が、先生方の仕事としていいのではないかとこともありますね。

組織のなかで多様性が低いと、思い込みやバイアスに気づきにくいという点もあ

ります。例えば、今回学生の皆さんに中学時代にポジティブな思い出が多いか、ネガティブな思い出が多いかを聞きました。すると良くない思い出が多いという方が25%いました。これと同じ質問をある時カウンセラーの方に聞くと、半分位ずつでした。また、現職の教員に研修会したときに聞いたら、8割9割ぐらいが、ポジティブな方でした。つまり、いい思い出が多い人ばかりの組織だと、学校生活に順応してきた方が多いので、学校の不条理さや辛さがわかりづらい部分もあるのかも知れません。また、学生アンケートで、校則が理不尽じゃないかという話が多くありましたが、そういうことに疑問を感じやすい方が、教員になっていないのかもしれない。例えば、カウンセラーの方であれば、学生のときつらい思いをして、それで心理学に興味が出て、今つらいと思っている子に貢献したいからカウンセラーになりましたという人もいます。ですが、教員だけで話をすると、家庭環境が比較的恵まれている方が多いです。この場合、バイアスがかかりやすいです。このように同質性が高いと、見方の偏りなどに気づきにくいこともあると思います。多面的な見方とか批判的な思考をもっと教師も教育行政職員も高めないと、そういった教育を子どもたちにできないと思っています。

#### (5) 先生の働き方

【ゲスト】最後に申し上げたいのは、先生方の中で、過労で倒れている先生たちがいるということです。失敗と呼ぶと語弊もあるかもしれませんが、教師の自死や過労死

は、学校運営や教育行政の最大の失敗ではないかと思います。最近の事例を2つほどピックアップすると、ある小学校の先生は、過労死かはまだはっきりわかりませんが非常にしんどい中で、激務で働いていたことがわかっています。もう一つ、富山の中学校の先生は、部活動や生徒指導が忙しく、時間外勤務が120時間前後あって、亡くなりました。ですからこういうことにも向き合わなければならないと思います。また毎年、教員でポジティブに転職されている方もいらっしゃいますが、しんど過ぎるとか、保護者等の対応でしんどかったとか、色々な理由で離職をされる方がいます。小学校であれば全国でだいたい7000人ぐらい、中学校でも4000人います。さらに毎年400人くらい亡くなっています。中には事故などもありますが、過労死や自殺のケースもあります。私は航空業界と医療業界の話をしたのですが、まだ学校や教育行政が失敗と向き合っていない部分もあると思っています。例えば、児童生徒が亡くなった場合は曲がりなりにも調査が行われ、検証報告書等が共有される一方、先生が亡くなったときには、ほとんどの場合、誰も調査もしないし、検証報告書も作っていません。また詳しい経緯を知る人は他の人に言わないようにと言われ、お気の毒様で済ませているのではないかと。誰も責任を取っていないです。本当にちゃんとその失敗と向き合っているのだろうか、二度と繰り返さないためにどのような教訓があるか、話し合えているかどうか。学校や教育行政は失敗から学習できているか、振り返る必要があります。あるいは、もっと学習する組織になっていくためには何が必要だろう

かということを考えていくべきだと思います。

#### (6) 質疑応答

【参加者】ありがとうございました。失敗が大事だということは、みんなすでにわかっていることだと思いますが、実際に自分がその立場になると、怖いので、成功ばかりの人生がいいと思ってしまいます。失敗が大事だという人は、どこかで成功した人であることが多いです。しかし学校現場で失敗が失敗のままで終わった生徒も結構いると思います。すると成功した経験がないから失敗が怖くなります。そこでお聞きしたいのが、学校現場で生徒が失敗体験をしたときに、教師はどのような支援をしたらいいのでしょうか。

【ゲスト】私も特に答えがあるわけではないですが、ここでの成功体験は、そんなに大仰なことではないと思います。小さな成功も含めて、子どもたち同士も、先生たちも声をかけていくといいと思います。例えば、九州にいらっしゃる菊地省三先生が「褒めシャワー」を広めています。小さなことから成功だと認めていくことが大切だと思います。もう一つは人と比較するのではなく、自分がハッピーかどうか重要です、今の学校教育では人と比較し過ぎて子どもの自己肯定感を下げているかもしれません。

【参加者】私は、失敗の中にも小さな成功があると思っています。だから成功の中でもどこが良かったのかを振り返ることが

大事だと思いますが、学校現場でそれがあまりできていないのではないかと思います。そこで、若い人が何か変えようと動いても、上の人に止められてできないこともあると思います。そのような場合、どのように進めていけばいいのでしょうか。

【参加者】自分が生徒中心だと思った行動が、生徒にとっては違うこともありますし、一人一人違う生徒のどこに合わせて指導するのかということは難しいと思います。どこに焦点を当てるのがいいと思いますか。

【ゲスト】学校でももっと若い人が考えたことも話をしていけるといいと思います。成功の部分からも色々な検証が必要だということは、おっしゃる通りです。なんとなくの思い込みで検証されないまま、関係性を見出していることもあると思います。どこまでうまく検証できるかも大きなテーマですが、考えないといけないと思います。しかし、教育は子ども相手なので、安易に実験もできないという難しさもあります。とはいえ、しっかり観察・検証することは大事です。例えば、学力テストの結果が出るのは後の話で、その前に子どもたちの反応がいいかどうかは日々の授業を見ていたらわかります。そこで PDCA などが大事になると思います。それから、どの生徒に合わせるのかについては、最近よく言われている「個別最適な学び」と関係します。多くの子にとって良いと思っていた授業の問い直しが行われていて、色々な子どもたちの特性や個性に応じた学び方がいいのではないかとことです。様々

な学校の活動で最大公約数的なところを  
とって、大人はいい教育だということや  
ってきてしまったと思います。

【参加者】私の経験上、学校全体で失敗を  
認めない印象があります。例えば、運動会  
や文化祭で、ちょっと失敗したら学生や先  
生から袋叩きにされるように、失敗を人の  
せいにすることが多いと思います。こうい  
う雰囲気を変えるためにはどうすればい  
いと思いますか。

【ゲスト】先生方の校内研修の議論の仕方  
として気になるのは、悪かったことを振り  
返りするとき、個人のパーソナリティや  
能力の問題と、組織的・環境的問題を分け  
ないことです。個人の問題以外もあるにも  
かかわらず、個人攻撃になるとお互い陰悪  
な雰囲気になったり嫌な感じになったり  
して、人間関係がこじれてしまうことがあ  
るので、議論や検証の仕方と、問題を複眼  
的に多面的に考えなくてはいけないと思  
います。いわゆるカレー事件で世間を騒が  
せた神戸の教員間暴力事件、その検証報告  
書では、加害者の教師の資質等の問題だけ  
ではなく、職場の中で教職員が問題を共有  
しない組織になっていたのではないかと  
いうことが書かれています。学校では子ど  
もの問題は共有されるけれど、教員間の問  
題は共有されにくいです。

【参加者】本当に素敵なお話でした。なぜ  
かというと、苦しさの理由も分からないま  
まひたすら頑張っている先生がいて、悪気  
は無いけど、その頑張りが教育業界の改革  
を妨げることも分からずにいる人もいま

す。今回の「失敗」というテーマは、今ま  
での戦後教育の正解主義や、目標達成型に  
関係すると思います。私は先生が自分を大  
切にし、さらにそのスタンスで子どもと関  
わる、つまり、結果・成果や目標を求めな  
いということが大事なのかなと思いましたが、  
いかがですか。

【ゲスト】正解主義のお話がありましたが、  
学校の勉強や学びがそればかりという  
つもりは全くないですが、ウエイトとして  
小学校・中学校で、いち早く個人で正解に  
たどり着けというような学びがやはり強  
いわけです。でも社会人になると唯一の正  
解があるわけではなく、まさにトライアン  
ドエラーの世界で、絶対これが正解ですと  
か、1人だけで頑張る必要はないです。だ  
から正解主義や個人で正解にたどり着け  
という部分が強すぎることは反省しなく  
てはいけないと思います。正解がない学び  
に保護者は不安になることもあると思  
いますが、教師も保護者も社会ももっと寛容  
になって、子どもたちがもっとゆっくり熱  
中してやっていいという感じになってい  
けるといいですね。

【参加者】不登校の説明で先生の認識と生  
徒の認識にギャップがあること、防衛的思  
考が働いて人のせいにしがちだという話、  
個人主義に陥っているという話は、本当  
にそうだと思います。そしてそれは別に  
「失敗」についてだけではなく「成功」に  
ついていえます。いい例に対しても、そ  
の人が特別で、自分にはできないと言っ  
て見習おうとしないという面があります。



## 「失敗」と向き合う

【ゲスト】私は失敗については、挑戦してうまくいかなかったものと、挑戦すらできなかったものの2種類があると思います。もしかしたら今の学校は挑戦すらできていない、しにくい状況になっていつかかもしれません。これを色々な部分からアプローチをし、挑戦と試行錯誤をポジティブに捉えていけばいいと思います。